
4. 用語集

【あ】

うすいしんとう
雨水 浸透 ます

住宅地などに降った雨水を地面へと浸透させることのできる装置で、雨水を資源として有効活用することを目的として作られました。地下水が涵養されることで、水害の軽減、湧水の復活、地盤沈下の防止、水質の改善、地球温暖化の防止、などの効果が期待できます。

うすいちよりゆうしんとうしせつ
雨水 貯留 浸透 施設

雨水を貯めて地下に浸透させ、雨水の流出抑制や地下水の涵養に役立つ施設のことをいいます。浸透施設には浸透ます、浸透トレンチ、浸透性舗装があり、貯留施設には浄化槽転用貯留槽、雨水貯留槽（雨水タンク）があります。

おだくふか
汚濁 負荷

家庭や工場からの排水や市街地・道路・農地等から流れ出る水質汚濁物質のことをいいます。家庭や工場等の排水の排出源を特定できる汚濁負荷を点源負荷といい、市街地や農地等の汚濁の排出点を特定できない発生源からの汚濁負荷を面源負荷といいます。

【か】

がいらいせいぶつ がいらいしゅ
外 来生物 （外来種）

本来その地域に生活していなかった生物で、人間の活動によって他の地域から入ってきた生物のことをいいます。一部の外来種は在来種よりも繁殖力が強く、在来種の生存を脅かします。

かせんせいびけいかく
河川 整備 計画

河川法第 16 条の 2 に基づき、河川管理者が河川整備基本方針に基づき、今後 20 年から 30 年間の具体的な河川整備の目標及びその内容を定めた法定計画です。海老川流域では、「二級河川海老川水系河川整備計画」が定められています。（令和 2 年 11 月 1 日作成）

がっぺいしよじょうかそう
合併処理浄化槽

トイレ用水を台所用水等の雑排水と一緒にして、処理する方式の浄化槽です。下水道未整備地域におけるトイレの水洗化対策として普及してきました。合併処理は技術的にも高度の機能が期待でき、さらに雑排水も処理されるので環境保全上は合理的な方法です。

かんきょうきじゆん
環境基準

人の健康を保護し生活環境を保全する上で、維持されることが望ましい基準のことをいいます。環境保全対策を進めていくための行政上の目標となります。

水質汚濁に係る環境基準のうち、生活環境の基準については河川、湖沼、海域別に利水目的に応じた水域を区切ってAA、A、B、C、D、Eの6つの類型を設けています。AA類型が最もきれいな水で、E類型が最も汚れた水になります。

かんとう そう
関東 ローム 層

関東地方に分布する火山灰起源の地層群の総称であり、第四紀更新世の火山活動に由来します。

げすいしよりじんこう
下水処理人口

下水道が整備されている地域において、そこに居住している人数です。

こうどうけいかく
行動計画

目的・目標に向けた方法や手順を考え、集中的・計画的な取組を促進するための具体的な動きや予定を決めたものをいいます。

こうどしよりすい
高度処理水

下水処理の過程で、一次処理、二次処理を経てなお残留する窒素、磷等を除去し、さらに処理水の水質向上を目的として行う高度処理によって得られた水のことで

ごがん
護岸

河川を流れる水の作用（浸食作用など）から河岸や堤防を守るために、表法面（川側斜面）に設けられる施設のことで

【さ】

じょうすい じょうすいどう
上水（上水道）

人の飲用に用いる水のことをいいます。水源としては河川・湖沼等の地表水や井戸水・泉等の地下水を用います。

すいけい
水系

河川は上流部から小さな河川が合流し、この合流を繰り返しながら徐々に海へ向かうにしたがい、大きな河川となっていきます。これら一群の河川を合わせた単位を「水系」と呼

びます。

せいたいけい
生態系

河川、湖沼、水田、山林等、あるまとまりを持った自然環境と、そこに生息・生育するさまざまな生物との関わりでもたらされる関係性の総体をいいます。

【た】

たしぜんかわ
多自然川づくり

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息・生育・繁殖環境及び多様な河川景観を保全・創出するために、河川管理を行うことです。

ちすい
治水

洪水による被害から人々や地域、生活、財産を守ることです。

ちすいあんぜんど
治水安全度

河川、湖沼、ダムにおける、水害に対する安全性を示したものです。

川に流れ込む雨水の量は、雨が降る強さや降る時間の長さなどから決まります。そのため、治水安全度は、「何年に一回の雨まで溢れずに耐えられるか」という表現を用います。これを「年超過確率」といい、年超過確率 1/10 の雨（10 年に一度経験するような雨）が降っても川の水が溢れず安全に流せるときは「治水安全度は 1/10」と言います。

ちょうせつち
調節池

洪水時に河川の水位が上昇すると、越流堤（堤防を低く設置している箇所）から洪水を池内に流入させて一時的に貯留することで、下流に流れる河道流量を軽減するための施設です。

とうすいせいほそう
透水性舗装

道路や歩道を隙間の多い素材で舗装して、舗装面上に降った雨水を地中に浸透させる舗装方法をいいます。地下水の涵養や集中豪雨等による都市型洪水を防止する効果があるため、主に、都市部の歩道に利用されることが多いです。

とうめいど
透明度

透明度板（セッキー円板）と呼ばれる直径 30cm の白色円板を水中に沈め、水面から見えなくなるまでの深さを m で表したもので、高ければ高いほど水が澄んでいることを示し

ます。主に湖沼、海洋などの水深の大きい水域で測定されます。

とくていがいらいせいぶつ
特定外来生物

外来生物のうち、人の生命・身体や生態系、農林水産業などに被害を与える侵略的な外来生物をいいます。特定外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）によって、飼育や栽培、保管、運搬、輸入することを厳しく規制しています。

【な】

【は】

へいじょうじりゅうりょう
平常時流量

増水や渇水していない、ふだんの川の流量のことです。海老川のように都市を流れる川の平常時流量は、生活雑排水などの人工系流量と地下水などの自然系流量で構成されており、流域の状況（下水道の整備や土地利用の変化など）によって左右されます。例えば、下水道の整備によって生活雑排水が流域外の下水処理場へ運ばれるようになると、川に流れ込む汚れた水は少なくなります。流量も減る傾向にあります。

【ま】

ますたーぷらん きほんけいかく
マスタープラン（基本計画）

事業全体の基本となる将来構想のことで、その実現のための各種計画・事業の整合をはかる総合的な指針としての役割を果たします。

みずしゅうし
水収支

一定の地域において一定の期間に流入する水の量と流出する水の量との差引勘定をあらわしたものです。

【や】

ゆうすいきのう
遊水機能

降った雨や川からあふれた水が一時的に滞留する機能であり、特に田んぼは高い遊水機能を有しています。

【ら】

らくさこう
落差工

河床の洗掘を防いで河川の勾配を安定させるために河川を横断して設けられる落差のある施設のことで。

りゅういき
流域

雨水がひとつの川に集まってくる範囲をさします。山の稜線（尾根）が流域界となります。道路・交通が発達する以前は、流域単位で生活・文化が発達してきました。

りゅうりょう
流量

河川を流れる水量のこと、または、その水量の単位のことをいいます。

【わ】

【アルファベット】

BOD（びーおーでいー）^{せいぶつかかくてきさんそようきゅうりょう}（生物化学的酸素要求量）

BOD（biochemical oxygen demand）とは、水中の好気性微生物の増殖や呼吸によって消費される酸素量のことです。水の有機物汚染が大きければその有機物を栄養分とする微生物の活動も活発になり、微生物によって消費される酸素の量も増加します。従って、BODが大きければ水中の有機物汚染が大きいことを示すため、水の有機物汚染の指標とされています。

m^3/s （りっぽうめーとるまいびょう）

立方メートル毎秒と読みます。1秒につき1立方メートルの流体が移動する体積流量です。